

2学期につながる有意義な夏休みに ～「メタ認知」を高めよう～

校長 税所 篤哉

本日で1学期が終了します。今学期を振り返ると、生徒の皆さんが元気に意欲的に学校生活を送っていた姿が思い浮かんできます。

朝の活動から始まり、授業や休み時間、学校行事や部活動などでの皆さんの取組を見たり、先生方から聞いたりして、これまで順調に進んできていることを実感しています。

4月に話した、和中生としてどう行動したらいいのか、「和中生たれ」の気持ちにそった行動がたくさん見られました。素晴らしいことです。

自分なりに、1学期を反省してください。上手くいったこと、いかなかったこと、失敗したことたくさんあったと思います。大事なことは、それをきちんと解決して、または解決しようとして、現在に至っているかということです。自分にとっての改善点を放ったらかしにしないこと、です。

学年を考えると、3年生は最高学年としての自覚を持ち、リーダーシップを発揮しながら活躍してくれています。その3年生を支え、1年生へ安心感を与えようと考えながら行動している2年生。そして、心身ともに中学生らしく「和中生たれ」を頑張っている1年生。3つの学年がそれぞれ役割を理解し、友だち同士のつながりを大事にしながら生活している様子があり、とても嬉しく感じています。と同時に、2学期以降の期待感がふくらんでいきます。生徒の皆さんには自分の可能性をいっぱい引き出せるように頑張ってもらいたいと思っています。

自分の力を引き出すために、夏休みにできるパワーアップ方法を1つ、教えましょう。それは、サブタイトルにある「**メタ認知**」です。

メジャーリーガーの大谷翔平選手が、ずば抜けたメタ認知の持ち主で、この能力をフル活用していると言われています。この「メタ認知」とは何でしょうか？そしてなぜ夏休みに必要なのでしょうか？

「メタ認知」を簡単に言うなら、「冷静で客観的な判断をしてくれる、頭の中にいるもう1人の自分」ということです。

例えば学習面だと、「今日の授業のこの部分がよく理解できなかったなあ。宅習でもう1回やってみよう」「何だか集中できていないなあ、少し休憩しよう。そしてまた、集中だ！」など。生活面だと、楽な方にいこうとする自分に対して、「本当にそれでいいのか？」「最近スマホの時間が長くなって、宿題をする時間が足りなくなってきたなあ」、友だちとの会話を思い出して「あの時に、あんな言い方をしなくてもよかったかもな」など、**自分の行動をよい方向にコントロールしていくこと**なのです。皆さんもこれまで、メタ認知を無意識に働かせていたことがあると思いますが、重要なのは、**自分で意識してメタ認知を働かせること**で、自分の力をさらに伸ばすことができるのです。そして、小学校高学年から中学生にかけてが、この能力が急速に発達する時期とも言われています。この能力を高めるチャンスが来ています。特に、自由にできる時間が多い夏休みこそ、「よし、〇〇を頑張っているぞ」といったメタ認知能力を活用する絶好の機会です。

明日から、44日間の長い夏休みになります。皆さんの生活の中心は、学校を離れて家庭や地域になります。ぜひ、スケジュール管理をしっかりと行い、この期間を有意義なものにしてください。

暑い夏になります。交通事故や水難事故に十分注意して、そして9月1日に、全員で元気に登校してください。

(終業式：校長講話より)

学校運営協議会



7月10日(木)、第1回学校運営協議会を行いました。下記のような本校の特色である和の中郷中を中心に授業参観をしていただき、多目的室で学校の取組について協議しました。学校の方針についてご理解頂くことができました。第2回目の会で成果をしっかりと報告できるよう職員一同頑張っていきます。

素晴らしい主張 弁論大会



7月11日(金)、校内弁論大会を行いました。学級弁論大会で選ばれた各クラスの代表12名が、堂々と自分の考えを述べました。

最優秀賞：泉 花蓮(2-1)「後悔しないように」
優秀賞：笹島彩愛(3-2)「自分の発言に責任を」
優秀賞：川上空音(2-2)「気づいた思い」
※裏面に発表原稿を載せてあります。

先輩から学ぶ 和の中郷中



7月10日(木)、「和の中郷中」を行いました。「和の中郷中」とはかつての郷中教育に倣い、先輩が後輩へ教える教育活動で、3年生が1年生へ「数学」と「英語」を教えました。いつもとは違う形の学習形態で、熱心に教える先輩に、後輩は一生懸命学ぶ姿がありました。微笑ましく、充実した時間になりました。

幼児と交流 保育実習



6月24日(火)に3年1組、25日(水)に3年2組が「わどまり子ども園」で保育体験学習を行いました。園長先生から保育園の概要や保育についてお話をいただいた後、グループに分かれて園児と交流しました。抱っこしたり、外で一緒に遊んだり、とても充実した体験学習をすることができました。今回の体験をもとに、家庭科の学習で、さらに幼児の生活と関わりについて学びを深めていきます。保育園の先生方、ありがとうございました。

1学期PTA

7月1日(火)、授業参観、学級PTA、学校保健委員会、家庭教育学級を行いました。学年・学級PTAでは1学期の反省や夏休みの注意事項等を確認しました。学校保健委員会では、学校薬剤師の松瀬さんを講師に迎え、オーバードーズについて講話していただきました。また、家庭教育学級では、町教育委員の田中美保子先生に子育てについて、楽しく語り合いながら講話をしていただきました。充実した活動になりました。ありがとうございました。



郷土講話学習「世之主伝説」



7月12日(土)、郷土講話学習を行いました。今年度も、和泊町歩み編さん室の企画で、岡山県新見公立大学の原田信之先生に「沖永良部島の世之主伝説」について講演していただきました。琉球の歴史、世之主の誕生、世之主の居城、世之主の最期と墓、世之主四天王伝説、シニグ祭り・ウミリ祭りと北山文化と6つの節で、先生が聴き取った事例などを交えて話していただきました。大変ボリュームがあり、少し難しい言葉もありましたが子どもたちは一生懸命に聴き、「初めて聞くことがあって面白く、興味深い内容だった」「世之主の四天王の事についてよく分かった」「島独自の廃れたお祭りがあることに驚いた」「自分でもまた、世之主について調べてみたいなと思いました」などの感想があり、有意義で素敵な時間を過ごす事ができました。原田先生、ありがとうございました。

8月行事

日	曜	主 な 行 事
11	月	山の日、リフレッシュウィーク(～17日)
13	水	学校閉庁日(～15日)
21	木	出校日

9月行事

日	曜	主 な 行 事
1	月	始業式
2	火	島内実力・実力テスト(～3日) SC来校(26日)
7	日	PTA愛校作業(雨天13日に延期)
8	月	体育大会練習(～19日)
21	日	第78回体育大会(雨天22日実施)
22	月	振替休日



『後悔しないように』

泉 花蓮

私は、皆さんに、後悔しないように生きてほしいと思います。そう思う理由は、私が思わず言ってしまう、今でも深く後悔している経験があるからです。

私の母は、私が小学6年生の時に子宮癌で亡くなりました。病院へ行った頃にはもうステージ4まで進行していました。なので病院へ行く2ヶ月前ぐらいからは、癌の転移により腰の痛みで歩けなくなっており、ほぼ寝たきり状態で、食事もともに食べられていませんでした。毎日のように熱が出て、とても苦しそうだったのを覚えています。

そんな生活をしていたので、洗わなければいけないお皿や、洗濯物はどんどん増えていきます。ですが私は、ゲームなどをするばかりで、自分から家事をしたり、母のために何かしたりはしませんでした。

そしてある日、母に家事をしてくれと頼まれました。ですが、当時の私には、母の様子はただサボっているようにしか見えませんでした。

母は常に腰が痛いと言えていたので、体調が悪いということを通して十分に分かっていたのですが、そんな母に私は正直嫌気がさしていました。だから私は母に向かって「ちょっとわがままじゃない？」と言ってしまったのです。当時の母は、弱音を吐ける人がいなかった。つまり、孤独だったのです。

そんなどうしようもないときに娘から浴びせられた一言に、母はどれだけ傷ついたことでしょう。そして、私と母がしゃべらなくなって三日ほどたった時、母は家の外で腰の骨が折れ、倒れこみ、病院に運ばれました。それから一ヶ月も経たないうちに、母は亡くなりました。その後、葬儀などが終わり、ふと我に返った時私は、「後悔」という感情を強く感じました。「どうしてあんなことを言ってしまったんだろう。」とそれから考えています。

これから先、どうなるかなんて誰にも分からないのです。あなたの隣の人と突然会えなくなるかもしれません。だから、後悔しないように、自分の行動に責任を持つてください。

私は皆さんに聞きたい。後悔しないように生きていますか？

「気づいた思い」

川上空音

私は障がいのある人を見たとき、つい、かわいそうと思ってしまう。同じような経験をした人はいるだろうか。

去年の十月、人生で初めて大きな怪我をした。怪我をしたことで、歩く、走る、階段を上る、思いっきりジョギングをするなど、今までできていたことができなくなり、思うように動けなくなった。

学校では、「早く階段下りて」など相手にとっては何気ない言葉でも、思いどおりに体を動かせない私にとってはすごく心に刺さった言葉だった。でも、周りの友達が荷物を持ってくれたり、私の速さに合わせて歩いてくれたりした。この優しさで、心が満たされた。

友達や家族など、私はたくさんの人に助けてもらった。この感謝の気持ちを忘れず、困っている人がいたら迷わず助けたり、声をかけたりできる人になりたい。その温かさを嬉しく思う一方で、周りとの違いに戸惑うこともあった。それは「けが人」と言われ、ほかの人と違うように見られたことだ。その時に、私は、初めて障がいのある人を怪我をしている人が自分とは「全く違う人間ではない」ということに気がついた。

「障がいがある」「怪我をしている」これは、人と人との小さな違いにすぎないと思う。

私は多分、今まで自分の中で基準となる人を作って誰かを判断してしまっていたのかもしれない。でも自分のその考えで誰かを傷つけてしまうことがあることを怪我を通して知ることができた。誰かを差別するのは小さな違いを大きな違いと見てしまっているからだと思う。

障がいのある人を見たとき、「自分とは少し違うな」と思う人もいるだろう。私も障がいがあることや怪我をしていることに対して、マイナスなイメージを持っていた。怪我をして、確かに不自由さを感じることもあった。でも怪我をしたから、人の温かさに気づくことができたし、そのおかげで新しい想いに気づくこともできた。みんな同じ一人の人間で、一つの命を持っている。誰かがその人のことを決める権利なんて持っていないし、その人を否定する権利も持っていない。

目に見えるような違いだけを見つけて、誰かを否定しないでいてほしい。その人にとってそれが普通の生き方かもしれない。誰もが、それぞれのペースで頑張っているということを忘れないでほしい。

「自分の言葉に責任を」

笹島彩葉

みなさんは、誰かの発言で傷ついたことはありませんか。また、自分の発言で人を傷つけたことはありませんか。人生で一度はありうることだと思います。人事だと思わず、考えてみてください。言葉というのは、人に大きな影響を与えます。

私は、人に言われて、つらい思いをしたことがあります。充実した学校生活を送っていた頃です。不意に、自分の容姿を馬鹿にするような言い方で、一言、二言、またはそれ以上に言われたことがあります。言った側は、ちょっとしたからかいのつもりで言ったのかもしれませんが。あるいは、本当に悪意を持って、直接悪口を言ったのかもしれませんが。

私には、言った側の気持ちはわかりません。でも、コンプレックスを指摘されて、とても苦しいし辛かったです。何の目的があって言ったのでしょうか。この出来事は、一生忘れることはないでしょう。それほど私は傷ついて、今にも心が腐っていきそうです。言葉は一瞬で人を苦しめるのです。

ですが、言葉に救われたこともあります。吹奏楽部に入部した一年生の時、一人で旋律を演奏する、いわゆるソロを任せられました。私は、人生で初めてのソロで、緊張とプレッシャーに押しつぶされそうになりながら、日々練習をしていました。案の定、本番で失敗してしまい、恥ずかしさと三年生に対する申し訳なさでいっぱいでした。そんな時、バツと指揮をしていた先生を見ると、「大丈夫」と言ってくれました。声は聞こえなかったけど、先生の気持ちが心にしみてきました。

言葉というのは大きな力があります。一瞬で人の心をえぐることもできます。えぐられた心は、いびつな形になると思います。でも反対に、人の心を包んであげることもできます。やさしさに包まれた心は、丸い形になると思います。言葉は人の心をさまざまな形にすると 생각합니다。私は、相手の心を、美しい心にするような人になりたいです。そのために、これまでの自分の発言を振り返り、反省して、これからの自分の発言に責任を持ちたいと思います。これが自分の体験を通してここに決めたことです。みなさんも、自分の発言をもう一度、確認してみてください。その言葉は、人の心、にどんな影響を与えますか。

まなびポケットお困りごとフォーム

※まなびポケットに関するお困りごと(ログインできない,ID・PWの再発行など)はこちらの相談フォームから相談できます。担当職員が対応します。

